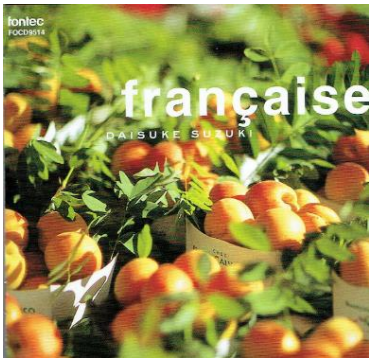
ギターCD レター from yakateru(第 14 号)

「目的」と「手段」、「結果」。これらは、当然混乱するようなものではないと思っているが、時には、「手段」が「目的」となり、「結果」さえも「目的」となる場合がある。また、「目的」や「手段」、「結果」そんなものが消えてしまうこともある。音楽は、目的、手段、結果、いやそれ以上？今日は、人生哲学的なのだ！！！！

何のために、がんばって書いているのか？？？？むむむむ？？？



今回で14号。その機動要因は？

5 月 20 日から、ほぼ一日に 1 号のハイペースでこれまで続いている。結構、読んでいただいている人からお褒めの言葉をいただくことがある。この年になっても褒めてもらえると嬉しい、いや、年をとれば取るだけ褒められるのは嬉しいのかもしれない。でも、無邪気に喜んでいてはいけない（のだ）。

30 年ほど昔、社会人になって上司に諭された。「君は、いろいろなことに興味を持っている。これはいいことだ。好奇心が旺盛なのだろう。しかし、好奇心旺盛というのは、食欲旺盛、性欲旺盛と同じ次元のものだから、人から褒められる事でもないし、ましてや、人に自慢するものではない。それは君の持って生まれた欲の強さなのだから」と。…・

家内の親戚から、「お休みの時は何をしているのですか」と聞かれ、「ギターばっかり弾いています」と答えると、「高尚なご趣味をお持ちで羨ましいですね」と褒められる？自分では、褒められるようなことと思っていないことで褒められると、勘違いに人間になりそうで不安である。どうぞ、簡単に褒めないでください！いや、でも、褒められると嬉しいので、やっぱり褒めてください…・？！？！。

説教するのは苦手中の苦手であるが、一度だけ、我ながらいい説教をしたなあと思うことがある。劇団のリーダーみたいなことをやっている息子から、「父ちゃん、仲間から尊敬されるには、どうすればいいちゃろか？」。自己主張の強い人間ばかりが集まっていると思われる劇団みたいなところで、リーダー的なことを息子はやっていたので、苦し紛れに藁をも掴む気持ちでおやじに聞いたのだろう、おそらくあまり期待もせずに。そこで私は答えた「そういうお前は、人から尊敬されたいと思っている人、尊敬されることを目的に行動している人を尊敬するのか？尊敬できるのか？！　尊敬されるということは、結果であって、目的ではない。やるべき目的を見失わないでしっかりやれば、結果として尊敬される、かもしれない」。目的と手段、結果を取り違えるなという息子へ伝えたメッセージであった（なかなかいいオヤジぶりでしょう！褒めてください）。

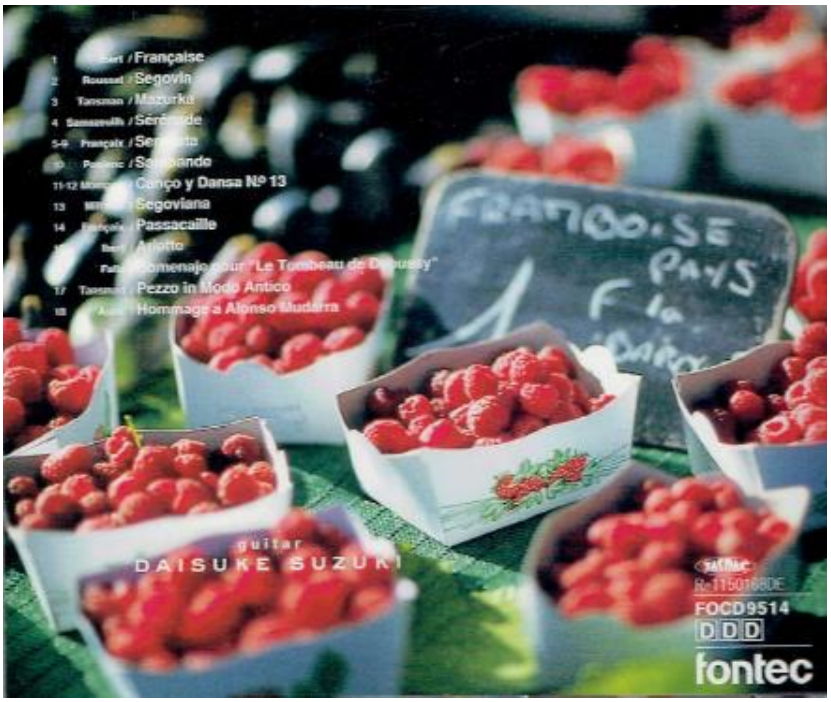
褒められるためにやっていたわけでもないのに、褒められると、いつのまにかに褒められたいためにやってしまうようになる（気がする）。ある時、気がつくと目的と結果がでんぐり返ってしまうのだ。それが不安であるということ。

この 14 号まで続いているのは、冒頭の知識欲の逆で、中に溜まっているもの（「貯まっているもの」ではないような気がする）吐き出したいという欲求なのだと思う。

ついでに、ちょっと好きな音楽的な人生論的説教を紹介する（説教は嫌いと言いながら）。ある人が、死が不安でしょうがなくなったので訊ねてみた。「人は死んだらどうなるのでしょうか？」その人は答えた「あなたは、音楽家でしたね。ギターで音楽を奏でている最中に、曲が終わってしまったらどうしようかと不安になるのですか。音楽の中にいるときは、音楽することを精一杯楽しんでいるのではないですか。そして、人生は、音楽みたいなものです」と。・・・

なにか、今日は、すごく書いていることが高尚のような気がするが・・・・。実は、昨日、八女で「鈴木大介＋松下隆二＋谷川俊太郎（詩人）によるコンサート」を聴きに行ったのだが、そこで、谷川俊太郎が、自分の詩をいくつか朗読した、その影響なのだ。鈴木・松下のギター二重奏も良かったが、高齢の谷川俊太郎が語る詩が、とても心に響いた。特に、「音楽」という詩が良かった。演奏しているときは、あなた自身が音楽そのものになるということを独特の表現で語っていた。そう、音楽は無限の時間を持った空間を表現しているのだ、なんて思いながら聞いていた。・・

今回のおすすめ CD は、前回に続き、色気、茶目っ気の曲が満載の CD で、昨日のコンサートでビンテージもんのヤコピでいい音出していた鈴木大介の「フランセーズ」である。前回の「フェタシリオン」と同じ系。この CD の曲も、弾きたくなる曲ばかり。（続く）



おまけ　（私の好きな）人生論的なぞなぞ

「私が泣いているのに、みんなが笑っている。私が笑っているのに、みんなが泣いている。これはなに。」

答え：人生（生まれた時と死んで行くとき）です。